

## 第1章 葛西臨海水族園の現状

### 立地・施設・特徴

- 葛西臨海公園内に1989年に開園
- 『海と人間の交流』の場を理念
- クロマグロの群泳、七つの海の生き物等を展示
- 管理運営は（公財）東京動物園協会（指定管理者）

園地面積：約86,000㎡	総水量：約4,600t
延床面積：約15,800㎡	展示生物数：約600種, 約43,000点
構造等（本館）：SRC、地上3階	飼育生物数：約940種, 約85,000点

### これまでの実績

- 21世紀に向けた新しい展示開発の場とし、アクリルガラスの現場接着を採用、成功
- マグロ、深海魚、海藻の飼育困難とされた海の生き物の展示に挑戦、成功
- 繁殖や希少種保全に取り組み、繁殖賞は国内水族館最多の52回受賞
- 学校教育との連携や、第4回世界水族館会議の開催等を実施 等

## 第2章 社会背景

### 1 目標・計画

- 「誰一人取り残さない」SDGsの開発目標
- 自然と共生する世界に向けた**生物多様性戦略計画**
- 海洋への理解を増進する教育を推進する**海洋基本計画**
- 教育から保全までの統合的取組、環境に優しい行動の選択を促す等の**世界動物園水族館協会の戦略**

### 2 変化する水族館

- 社会教育施設、教養施設に加え、希少種の保護繁殖を担う施設として**役割が拡大**
- 水族館の**運営形態の多様化**
- **観光資源及びユニークベニュー等としての活用**

### 3 水族館に求められること

- **持続可能な社会の実現への貢献**
- **海と人とをつなぐ架け橋**
- **グローバルな視点での統合的な保全活動**
- **ソフト・ハード両面でのアクセシビリティの確保**
- **生物多様性を守ることにつながる取組**
- **海の文化・歴史を伝える**
- **立地・施設のポテンシャルの発揮**

## 第3章 葛西臨海水族園の課題

### 1 機能から見た課題

- これまでの希少種保全、環境教育等の取組の発展とともに、新たな取組に挑戦することが重要
- **新たな取組を行う上で重要となる機能を再構築する必要**

### 2 施設の課題

- |                     |  |
|---------------------|--|
| (1) 不足する施設          | 無料休憩所、レクチャールーム等の充実が求められる                 |
| (2) 施設・設備の老朽化       | 配管等の交換が困難、アクリルガラスの劣化の進行                  |
| (3) アクセシビリティの確保が不十分 | 誰もが利用しやすい仕様やデザインへの対応が困難                  |
| (4) 展示の課題           | 気づき・感動等を生む水槽形状や展示手法の開発等が必要               |
| (5) 消費エネルギーに関する課題   | 消費エネルギーが大きい施設で、様々なCO <sub>2</sub> 削減策が必要 |

### 3 管理運営の課題

- (1) 来園者を引きつける魅力 来園者数の伸び悩み、来園者を引き付ける広報戦略の強化が必要  
(2) 経費の削減 電力消費を抑える取組、海水使用量を削減する技術開発の検討が必要

## 第4章 新たな水族園像とその実現に向けて

### 1 新たな水族園像

#### (1) 新たな理念

**新たな理念** 「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」

**行動規範** 「海への興味・関心を高めることができる場を提供」

「私たちのライフスタイルの転換を促す」 「豊かな海を未来に残す一翼を担う」

「東京湾・海に関する文化・歴史を発信」 「海の未来を考え、行動する人材を育てる」

「海を感じる魅力的な時間・空間を提供」

→ 日本を代表する水族館として、水族館のトップランナーであり続けるように取り組む

#### (2) 機能の再構築

○ 新たな理念を達成するには、**持続可能性を重視した新たな取組を行う必要**

○ **4つの機能を6つの機能に再構築、全てを有機的につなげた取組へと発展**

〈6つの機能〉 ①調査・研究 ②収集・飼育・繁殖 ③展示・空間演出  
④レクリエーション ⑤学習・体験 ⑥環境保全への貢献

○ **機能を発揮させるために**

\* 持続可能性を重視した収集・調達等の取組・活動を基本

\* 臨場感・期待感が高まる展示・空間演出

\* 多様なニーズに対応した過ごし方を提供

\* 幅広い学びの機会を提供するほか、人と人とのコミュニケーションを重視 等

#### (3) 施設性能について

○ 来園者ニーズへの対応等、誰もが使いやすく魅力的な施設

○ 飼育、繁殖等の水族園機能を十分に発揮 ○ メンテナンス性能の確保、環境負荷の低減

#### (4) 管理運営にあたって

○ インバウンド誘致等、来園者増加の取組

○ ICT等の媒体を適切に活用した情報発信

○ 様々な組織・団体等との連携

○ 運営者にインセンティブを持たせる仕組み

### 2 実現に向けた進め方

○ これまでの展示・空間演出を抜本的に刷新する必要

○ 老朽化対応、アクセシビリティの改善等が必要

○ 利用者ニーズへの対応等には増築が必要

○ 生き物の受入手配等は非常に困難

「改築」を基本とした検討を進める

### 3 「改築」の考え方

○ 現在の水族園地内に、新たな施設を建築する「改築」を基本

### 4 改築検討の進め方

○ 具体の規模要件、整備手法等は、**ライフ・サイクル・コスト及び官民連携方法と合わせ検討**

○ **スケジュール（予定）** 2018年内に基本構想を策定

2019年度内に葛西臨海水族園の更新に向けた事業計画を策定